令和6年度授業改善プラン

（取り組み内容）
・毎学期の終わり、自分の担当（各学年ごとに項目だてて）の授業に関して作成する。
・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名（　数学科　）　教科主任名　　會田　傑

★教科・観点について
学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。＜〇成果　▲課題＞

観点	前半～9月			後半～1月			次年度に向けて
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・プランの1次評価）	1次評価後の具体的な改善策	まとめ
知識・技能	1年	〇授業アンケート「説明ははっきりしていて分かりやすい」では96%当てはまり、基礎の解き方が定着できている。 ▲符号ミスによる計算ミスが目立つ。図形では作図の利用に苦戦する生徒が多い。	夏休みに期末考査で計算ミスの目立つ生徒を対象に、少人数の補充教室を行い、計算練習を実施した。作図は小テストを実施して基礎の定着を図った。	1年			
	2年	〇1学期の成績では計算などの基本的な内容が身に付いているA評価の生徒が約半数いる。 ▲全く身に付いていない生徒に関しては、2年生の文字式の計算から復習をする。	夏休みに計算が苦手な生徒を対象に、補充教室を行い、計算の反復練習を行う。また、授業中も机間指導を個別に行う。	2年			
	3年	〇計算の知識技能が高く、基礎が定着している。 ▲図形に対する理解度を高める必要がある。	図形に関して、見取り図と実物を用意することで想像力を養う。	3年			
思考・判断・表現	1年	〇正負の数の利用では、グループワークから平均をどうすれば最も効率的に解けるのか探求することができた。	基礎の定着から各単元ごとにグループワークを実施して思考・判断・表現を生徒主体で共有を図る。	1年			
	2年	〇授業中でのお互いに説明する場面では積極的に取り組んでいた。 ▲知識を活用しなくてはならない問題に直面した際に、見通しをもたせる必要がある。	単元の最後の活用しなくてはいけない文脈では、習熟度の実態に合わせて活用問題を扱う。	2年			
	3年	▲基礎的な知識をどのように活用していいか分からない生徒がいる。	基礎的な内容の成り立ちに触れることや、日常的な問題を扱うことで、内容の利用方法を確認できるような授業を行う。	3年			
主体的に学習に取り組む態度	1年	〇授業アンケート「授業が分かりやすくなる（または技術が向上する）ような工夫をしている」では95.5%当てはまり、定期的な小テスト実施ができている。小テスト後には反復して解き直し、期末考査では良い結果につながった。	授業進度を教員間で共有し、適切な問題を提示する。	1年			
	2年	〇授業には真面目に取り組む生徒が多い。 ▲提出物の提出はするが、間違い直しなどまでやりきれていない生徒もいる。	日々の授業や、テスト明けなどに間違い直しを丁寧にする大切さを指導する。	2年			
	3年	〇教育支援ツールによる自己学習が見られた。	習熟度に合わせて問題を提示し、個々の伸長をはかる。	3年			